

令和 6 年度区外施設定期監査の結果に関する報告

第 1 監査の概要

目黒区監査委員監査基準に準拠して行った監査の内容は以下のとおりである。

1 監査の種類

区外施設定期監査

2 監査実施日

令和 6 年 7 月 3 日（水）

3 監査の対象施設

目黒区興津自然学園

4 監査対象部局

教育委員会

5 監査の内容及び主な着眼点

区外施設定期監査は、地方自治法第 2 条第 1 4 項及び第 1 5 項の規定の趣旨に基づき、適正かつ効果的に執行されているかを基本に、以下の項目を踏まえて実施した。

- （1）施設の管理及び運営は適切に行われているか。
- （2）財産・物品の管理は適切に行われているか。

6 監査の方法

目黒区興津自然学園において、監査委員による説明聴取等の方法により実施した。

第 2 監査の結果

1 指摘事項

施設の管理及び運営等はおおむね適切に行われており、指摘する事項は特に認められなかった。

2 意見・要望事項

改善について検討を求める事項等が見受けられたので、次のとおり意見・要望を述べる。

（1）施設の活用について

区では、豊かな自然環境を生かした体験活動や異なった環境における集団生活を通じ、児童・生徒の自然を愛する心や環境を保全する態度、自律の精神や協調性、規範意識等の育成を図るため、興津自然学園及び八ヶ岳林間学園等を活

用し、平成23年度から全区立小中学校で自然宿泊体験教室を実施している。

興津自然学園では、主に小学校4年生及び6年生の自然宿泊体験教室が実施されており、前回監査を実施した元年度以降の参加人数をみると、元年度2,787人、2年度は新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の影響により事業中止、3年度1,106人（6年生のみ実施）、4年度1,345人、5年度1,358人（4・5年度は4年生は事業中止）であった。

2年度以降の自然宿泊体験教室は、コロナの影響により、事業を中止又は縮小しての実施となっていたが、従前から日程面や宿泊行事における様々な負担の軽減等が課題となっていたことから、児童・生徒の発達の段階などを考慮し、実施場所や実施日数の見直しが行われた。

6年度からは、小学校4年生が1泊2日から日帰り、小学校6年生及び中学校1年生が3泊4日から2泊3日（5年生は2泊3日で変更なし）での実施となっており、小学校特別支援学級（4校合同）の自然宿泊体験教室は、これまでと同様に興津自然学園又は八ヶ岳林間学園での隔年実施で、6年度は八ヶ岳林間学園で実施予定となっている。

この結果、6年度に興津自然学園で自然宿泊体験教室を実施する区立小学校は、5年生が2校、6年生が17校で、元年度と比較すると年間の施設利用日数は大幅に減少しており、施設の年間利用状況をみると、元年度は22.8%、2年度はコロナの影響により事業中止、3年度は13.1%、4年度は14.5%、5年度は14.7%と低い利用状況が続いている。こうしたことから、区立学校の利用実績がない7月から8月にかけての夏季休業日や、11月から翌年3月までの施設の有効活用が課題となっている。

区立学校以外の興津自然学園の使用については、平成24年度に、目黒区興津自然学園宿泊室の目的外使用許可の手續等に関する要綱を定め、これに基づき実施しているが、目的外使用できる団体は、区内の青少年団体等のほか、教育長が必要と認める場合に限られており、元年度以降は区内の青少年団体等の利用実績もない。

このため、施設の有効活用に向けては、対象団体に対して団体利用が可能であることの周知に努めるとともに、利用可能な団体の範囲拡大等も含め、必要に応じて要綱の見直しを検討し目的外利用の促進を図られたい。

（2）施設管理について

自然宿泊体験教室に参加する児童等が、施設を安全・安心に利用できるよう、法令等に基づく点検を確実に実施し、目視による日常点検等により不具合や劣化の早期発見に努めるなど、適切に施設の維持管理を行う必要がある。

これまで、日常の点検等に基づく修繕工事のほか、前回監査以降、2年度にトイレの手洗い蛇口自動水栓取替工事、4年度に屋内運動場のエアコン改修工事、5年度に北棟屋上防水改修工事が実施されるなど、施設の改善等にも取り組んでいる。今後も施設課等と連携し、施設の安全性の確保と円滑な利用に向けて適切な維持管理に努められたい。

一方で、自然宿泊体験教室の実施場所や実施日数等の見直しに伴い、区立学校

の利用がない時期がかなりの期間あることから、目的外利用の状況も踏まえて、管理委託料等の維持管理経費の縮減を意識した取組も必要である。

4年5月に改定した区有施設見直し計画では、今後も施設を維持し続ける必要性を検証し、民間宿泊施設の活用など、効率的な事業展開を検討するとしていることから、区有施設見直しの検討状況も踏まえながら、安全性の確保に留意しつつ、施設の維持管理について、委託業務内容の見直し等を検討されたい。

以 上